

日吉台地下壕保存の会会報

発行 日吉台地下壕保存の会

第6回戦争遺跡保存全国シンポジウム 山梨大会開催要項発表される

大会の成功へ向け、ご参加を

「武器を持たない戦争」と言われるサッカー・ワールド・カップで、日本いや世界中が沸き立つ中ですが、地道に過去の本当の戦争と向き合い、歴史を検証する標記大会が山梨で開催されます。昨年は川崎市平和館を中心に成功裏に行われたもので、今年は8月24、25日山梨学院大学を中心に実施されます。

戦争が本当に無くなり、スポーツが戦争の替わりとなる時代が来るなら、これほど素晴らしいことはないでしょう。しかし未だ戦争は無くならず、人類が平和な時代に生きるのはまだ先ようです。平和な時代の建設のためには過去の歴史を検証し、後世に正しく伝える活動が必要とされます。

この大会は正にそのために、アジア太平洋戦争で各地に残された戦争遺跡を保存し、検証し、公開する取り組みを民間レベルで、全国の志ある人達が取り組んでいるものです。

大会に先立って行われる見学会では韭崎七里岩地下壕の見学が行われますが、そこではアジア太平洋戦争末期、日本軍がジェット機やロケットの研究、製造を地下工場で行おうとしていた事実に驚かされることでしょう。また山梨大学の赤レンガ館では旧陸軍の師団本部の建物の保存が進められつつあることを見ることが出来ます。また全国の保存運動に取り組む人達の活動報告を聞くことは、日吉台で保存運動に取り組む我々にも貴重な示唆を与えてくれます。

全国、いやアジア太平洋全体に散在する戦争遺跡の保存、検証、公開に向けての活動は先の大戦を歴史の中で正しく検証するための活動でもあり、今後も膨大なエネルギーと時間を費やさなければなりません。この大会はそのための一つのマイル・ストーンになることでしょう。

日吉台地下壕保存の会はこの大会設立当初からの発起団体の一つであり、戦争遺跡保存のための全国レベルの情報、ノウハウをこの大会から得ています。今年もこの大会に参加することで新しい活動の発展が期待されます。是非多くの方々がこの大会に参加されることを願うものです。

第6回戦争遺跡保存全国シンポジウム 山梨大会開催要項

- 期日 2002年8月24日(土)～25日(日)
- 開場 山梨学院大学(甲府市酒折2-4-5) TEL055-224-1450
- 日程 24日 午前 見学会(9時～12時) 甲府駅一韭崎七里岩地下壕一
山梨大学赤レンガ館一山梨学院大学(貸し切りバス)
- 午後 全体集会(13時～16時半) 基調報告 シンポジウム
地域報告等 於:山梨学院大学メモリアルホール
- 夜 交流会(18時～20時) 於 ホテル石庭
- 25日 分科会(9時～12時) (13時～14時):山梨学院大12号館
第一分科会 戦争遺跡保存運動の現状と課題
各地の保存運動、戦争遺跡の紹介 保存運動入門等
- 第二分科会 戦争遺跡の調査方法と保存技術
調査・保存のための方法・技術等
- 第三分科会 平和博物館と若者への継承
平和資料館の取り組み 案内・学習、次世代への継承方法
- 全体集会 分科会報告、まとめ(2時半～3時半)
戦跡保存全国ネットワーク総会(3時半～4時)
平和博物館市民ネットワーク総会(4時～5時)
- 24日～25日 全国の戦争遺跡展書籍交換会 於:山梨学院大学12号館
- 参加費 一般 1800円(当日2000円) 学生500円
見学会参加費 2000円(昼食弁当代込み)
23日の前泊、25日の後泊者には交付しないのビジネス・ホテル
を斡旋します。 甲府市内
- 参加申し込み 締め切り 8月10日(土)
日吉台地下壕保存の会でまとめて申し込みたいと思います。
ご希望の方は保存の会運営委員までご連絡下さい。

2002年度第14回総会実施される。

日吉台地下壕保存の会2002年度第14回総会が5月27日(土)慶応大学日吉キャンパス藤山記念館会議室で行われました。総会では活動報告、2001年度決算、活動方針、2002年度予算、及び人事について話し合わせ、いずれも原案通り承認されました。以下次ページにその資料を掲載します。なお総会に先立って地下壕見学会も行われました。

2001年度活動報告

2001年度は日吉台地下壕の見学者が1,100名を超えました。2001年3月に慶應義塾が行った整備工事、見学用入口の設置で安全な見学コースを歩けるようになり、地元の2小学校の6年生が歴史・平和学習に訪れました。また、港北区小・中学校教員の初任者研修、高校、養護学校、多様なグループ、各年齢層の方々が見学に参加されています。これからも日吉台地下壕の平和学習活用に努めていきたいと思えます。2001年12月3日に「日吉台海軍艦政本部地下壕」の保存についての請願を1,113名の署名を添えて市議会に提出しました。短期間に会員や地域の方などのご協力で署名数は1,000名を超えましたが、残念ながら不採択になり、艦政本部地下壕の埋め戻し工事は2002年度も続けられています。この署名活動により、地下壕について議会で討議され、存在と現状を知らせることができ、「近代遺跡調査票」を入手し、二つの地下壕が文化庁に所在報告されていることを確認できました。不採択は残念ですが成果はありました。

8月3日～4日には、第5回戦争遺跡保存全国シボジウム神奈川県川崎大会・第9回川崎横浜平和のための戦争展を開催し、全国からの参加者700名を迎え、成功裏に終了しました。ホームページの設置、見学ツアー、本の出版、学習会等も行いました。

○日吉台地下壕保存の会○

- ・会員数 212名（会費納入者、2002年5月12日現在）
- ・定期総会開催（2001年5月26日）
- ・運営委員会開催 12回（月1回）
- ・会報発行5回

58号7月6日、59号9月18日、60号11月28日、61号1月29日、62号4月16日

- ・見学会 34回 参加者 1,130名
- ・学習会 4回（元理事生、通信兵の話を聞く会、パンフレット作成、見学会が1日研修）
- ・松代大本営地下壕・無言館見学ツアー 11月3・4日 参加者 8名
- ・箕輪海軍艦政本部地下壕について

請願署名を横浜市議会に提出（12月3日・署名数 1,113名）

市議会大学教育委員会で請願第18号として審議 不採択

箕輪海軍艦政本部地下壕の写真撮影、調査 4回（埋め戻し工事の状況など）

- ・戦争遺跡保存全国ネットワーク

第5回戦争遺跡保存全国シボジウム神奈川県川崎大会・第9回川崎・横浜平和のための戦争展開催 8月3～4日（川崎市平和館・法政第二高校）

参加者： 700名 ネットワーク103名（日吉台地下壕）

内容： ネットワーク・全体集会・講演澤地久枝さん（語り継ぐべきこと）・分科会

分科会： 「保存運動の現状と課題」・「戦争遺跡の調査方法と保存技術」

「平和資料館と若者への継承」

展示： 私の街から戦争が見える『全国の戦争遺跡展』

書籍出版： 『戦争を歩く みる ふれる ピースロード多摩丘陵』

『アジア太平洋戦争下の大学と軍隊』

実行委員会：7回開催

- ・平和のための戦争展 in よこはま 参加展示5月31日～6月3日神奈川県民ホール・センター

2001年度 決算報告 (案)

(単位 円)

費目	2001年度予算	2001年度決算	備 考
【収入の部】			
会費	304,000	276,570	212名
カンパ	0	2,250	
図書等頒布	0	31,500	
見学会資料代	0	261,058	
雑費	0	260	
繰越金	155,113	155,113	
計	459,113	726,751	
【支出の部】			
運営費	90,000	138,415	各種会合、保管料等
事務費	30,000	92,537	事務用品費等
印刷費	25,000	39,115	会報・資料等
通信費	180,000	146,470	会報郵送費
資料費	30,000	42,851	書籍・資料等
頒布図書購入費	40,000	109,100	
交流・交通費	50,000	62,383	全国集会・各平和展賛助金
謝礼	10,000	17,355	講演・学習・調査等
予備費	4,113	0	
計	459,113	648,226	
差引残高		78,525	

以上の通り報告します

2002年5月22日

日吉台地下壕保存の会

会計 白鶴 邦子

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査

森山 高行



会計監査

天野 喬子



2002 年度活動方針—(案)—

日吉台地下壕保存の会が発足して13年目を迎えます。その間、この地下壕を戦争遺跡として保存するように会員の方や地域の方と協力して活動を行ってきました。

昨年度は、地下壕見学会、学習会、戦争遺跡保存全国シンポジウムの開催、議会への請願などいろいろな運動を活発に運営委員会で討議しながら行いました。それなりの成果が上がりました。

特に、慶應義塾が地下壕を本格的に整備したことにより、見学が容易になりました。それにより、見学対象範囲が幅広くなり、いろいろな団体の見学会を開催できるようになり、昨年度は2つの小学校、1つの養護学校を案内しました。地元の歴史や平和学習を学校教育の「総合の時間」に教えるようになり、事前学習などをしっかりすることにより、この地下壕見学会が児童・生徒達が平和を考える糸口になりつつあります。若い世代に話を引き継ぐお手伝い出来るようになりました。これからもより多くの学校が見学出来るように、資料などを揃え、体制を整えていきたいと思えます。

またその他にも、地下壕に関する調査・研究、旧海軍連合艦隊寄宿舍の保存や平和資料館などの建設など次へに向けていろいろな問題が、まだまだ山積しています。そのためには保存運動をより広範囲に広げ、賛同者を増やし、全国の戦争遺跡保存運動を進めている団体とも協力して、より多角的に活動をしていかなければなりません。

そのために以下の活動方針を提案したいと思います。

活動方針

- 日吉台地下壕内の整備・活用方法を考え、その実現に努力する
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させ、より頻繁に開催する。
- 小・中学生のための見学会を開催していく。
- 日吉台地下壕の調査・研究及び学習会を開催する。
- 日吉台地下壕平和資料館建設を目指し、実現に努力する
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを地域の方々と連帯して行う。
- 全国の戦争遺跡保存の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 運営委員会の活動の充実と強化をはかる。

2002年度 予算 (案)

(単位 円)

費目	2002年度予算	備考
【収入の部】		
会費	304,000	300名・2団体
カンパ	0	
図書等頒布	0	
見学会資料代	100,000	
雑費	0	
繰越金	78,525	
計	482,525	
【支出の部】		
運営費	70,000	各種会合
事務費	50,000	事務用品費等
印刷費	35,000	会報・資料等
通信費	170,000	会報郵送費
資料費	50,000	書籍・資料等
頒布図書購入費	30,000	
交流・交通費	50,000	全国集会・各平和展賛助金
謝礼	20,000	講演・学習・調査等
予備費	7,525	
計	482,525	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2002年5月25日

日吉台地下壕保存の会
運営委員会

総会で以下の方が役員に選出されました。(アイウエオ順)

会 長 大西 章 副会長 新井撥博 鈴木順二

運営委員 岩崎昭司 大久保隆 岡上そう 亀岡敦子 喜田美登里 酒井啓 佐相康雄

鈴木高智 白鶴邦子 谷藤基夫 遠山孝治 常盤義和 都倉武之 富澤慎吾

中沢正子 中谷俊吾 林 ちづ 茂呂秀宏

会計監査 天野喬子 森山高行

顧 問 永戸多喜雄 佐藤林平 鮫島重俊 東郷秀光

日吉の歴史に学ぶ（2）

運営委員 亀岡敦子

寄宿舎日吉寮の建設

一期工事の完了で校舎、体育施設や食堂などが整い、昭和9年5月から日吉の町は学生でにぎわい始めた。日吉キャンパス開校の効果は道路の整備や交通網の発展にも及び、横浜市と川崎市とも大いにこれを歓迎したと両市史に記されている。

続いて11年度中に完成した主な施設はつぎのものである。第二校舎、見たから移築した木造校舎、及び教職員食堂、学生団体事務室、弓術道場、バレーボールコートと器械体操場である。翌昭和12年8月には寄宿舎が完成し、体育施設としては空手道場、相撲練習場、卓球場とボクシング練習場が完成した。これらの学園建設を通して明確になるのは、すでに中国大陸では戦争が始まっていたが学問にスポーツにそして生活面においても、出来る限り理想に近いキャンパスを実現させようとする義塾の強い意志であろう。

中でも当時東洋一をうたわれた寄宿舎は特筆に値する。日吉台地の南端、川崎から、はるか丹沢や富士山まで見渡せる場所にあり、新進建築家谷口吉郎氏（1904～1979）の設計による寮である。氏は日本を代表する建築家の一人で芸術院会員で後年文化勲章を受けている。東宮御所、国立近代美術館、藤村記念館等で多くの有名作がある。また、「明治村」の発案者でもある。氏は学生寮設計の依頼を受けたとき、理想の寮を作ろうと考えたと随筆の中で記している。一人一室、水洗便所、床暖房、南面する窓からの採光は良好でベッドや机等の生活家具は備え付けである。コンクリート3階建ての3棟（各40人収容）が昭和12年8月に完成し9月には入寮したが、大変な人気で入試より倍率が高かったと述懐する卒業生もいる。中でも別棟の大浴場は円形で、通称ローマ風呂と呼ばれ、ガラス窓からの眺望は素晴らしいものであった。

この日吉寮は完全な自治が貫かれ、舎監として教員一名が、各棟に住み、起居をともにしたが、管理は一切無く、読書会や勉強会を開いて、ともに暮らし、ともに学ぶという姿勢があったという。台地の下は一面の~~股堀~~^{股堀}で張るの美しさはたとえようもなかったとは寮生の言葉である。しかし、この寮も戦争の波を真正面から受けた。18年秋、学徒出陣により多くの寮生がここから戦場へと出ていった。今も出陣前に書き残したであろうと思われる落書きのいくつかがかすかに読みとれるという。

翌昭和19年9月29日には海軍連合艦隊司令部が旗艦「大淀」から陸に上がり、寄宿舎三棟（南寮、中寮、北寮）に入った。この日から昭和20年8月15日まで谷口吉郎と関係者全てが思いを込めて作り上げた学寮は太平洋戦争末期の日本海軍の中核施設へと変貌を遂げた。更に戦後は米軍に接収され、米軍将校の生活の場となった。それは昭和24年10月に義塾へ返還されるまで続いた。

活動の記録 2002年4月～6月

2002年

- 4月16日(火) 第11回運営委員会 会報62号発送(慶応高校物理教室)
- 4月28日(日) 日吉台地下壕見学会(保存の会定例見学会) 28名
- 5月12日(日) 日吉台地下壕見学会(川崎平和をきづく市民のつどい) 12名
- 5月13日(月) 第12回運営委員会(慶応高校物理教室)
- 5月25日(土) 日吉台地下壕保存の会総会(慶応大学藤山記念館)
日吉台地下壕見学会(午前 日本セカンドライフクラブ 35名
午後 定例見学会 9名)
- 6月1日(土) 第10回横浜・川崎 平和のための戦争展2002 プレイベント
戦争遺跡を歩く・みる・ふれる Bコースの下見(宮崎台を歩く 7月
21日予定)
- 6月9日(日) Dコースの下見(箕輪を歩く 9月29日予定)
- 6月23日(日) 第10回横浜・川崎 平和のための戦争展2002 プレイベント
戦争遺跡を歩く・みる・ふれる Aコース井田・蟹ヶ谷を歩く 実施
参加者60名(真福寺・健康の森・ひとみ座・中原養護学校・海軍東
京通信隊蟹ヶ谷分遣隊跡・川崎市平和館)

予定

- 6月27日(木) 第1回運営委員会 会報63号発送(慶応高校物理教室)

日吉台地下壕保存の会では、月1回定期的に見学会を予定しています。見学希望の方は
お問い合わせください。(045-562-0443 喜田)

6月30日(日) 7月28日(日) 8月18日(日) 9月22日(日)

会計のお問い合わせ：白鶴 邦子 神奈川県白幡向町20-49 045-402-9090
 其他のお問い合わせ：喜田美登里 港北区下田町2-1-3 045-562-0443
 ホームページアドレス：<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報
 発行 日吉台地下壕保存の会
 代表 大西 卓
 編集 日吉台地下壕保存の会
 運営委員会

(年会費)一〇千円以上
 郵便振込口座番号00250-2-7-74921
 (加入者名)日吉台地下壕保存の会